

第1回生物多様性地域戦略策定庁内調整会議 議事要旨

日時：平成29年6月26日（月）17：00～19：00

場所：日野市防災情報センター1階 災害対策本部室

出席者：萩原副市長（冒頭の挨拶まで）

米田教育長（冒頭の挨拶まで）

まちづくり部	部長	宮田 守
	都市計画課長	岡田 正和
	区画整理課長	岡崎 健次
	道路課長	井上 泰芳（代理 原主幹）
産業スポーツ部	部長	田村 満
	参事	高橋 真二
	都市農業振興課	浅川 浩二
	観光振興課	小松 利夫
環境共生部	部長	小笠 俊樹
	環境保全課長	長谷川 浩之
	緑と清流課長	平 義彦
地域戦略室	室長	渡邊 博朗
企画部	部長	大島 康二
	企画経営課長	仁賀田 宏
	地域協働課長	熊澤 修
健康福祉部	部長	赤久保 洋司
	健康課長	山崎 八州志（代理 平副主幹）
教育部	部長	岡野 仁
	参事	金子 龍一
	庶務課長	兼子 理夫
	学校課長	加藤 真人
	生涯学習課長	木村 真理
事務局	環境保全課	成澤課長補佐 高見

1. 開会挨拶

【荻原副市長】

資料 1 の最後のスライドには「いちばん大切なこと」として生物多様性地域戦略は市民が主役であること、とあります。各課の業務と照らし合わせてみて、まずはどう動けるのか議論し、それを基に戦略を策定していくことが必要です。環境のまち日野市と言える地域戦略を作っていく、その趣旨を十分に議論していただき、策定についてご協力をお願いしたいと思います。

戦略は動かしていくことが大事になっていきますので、十分に理解していただき、議論していただきたいと思います。

【米田教育長】

今年度は教育委員会では大きなテーマが 2 つあります。

ひとつは「命を感じ、命を伝えあい、生きる喜び溢れる汗」。命の繋がりの中で私たちは生きており、すべての命は繋がっている。感じて・伝えて、すべての生きものが喜びあえる地球環境を作っていく。

もうひとつは「みんなが参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造へ」。すべての者が参加して知恵を出し合って、世の中と結びつきながら、次の未来へ創造的な活動をしていただきたいと思います。教育委員会もこの委員会と一緒に行動いたします。

荻原副市長・米田教育長 退席

2. 日野市らしい生物多様性地域戦略に向けて

資料 1 解説（パワーポイント）

「質疑応答」

【仁賀田課長】

生物多様性の用語が理解しがたい、一般的に生物多様性はどう使われているのか。

【事務局】

生物多様性を分かりやすく解説すると、種・生態系・遺伝子の 3 つのレベルの多様性で解説される。

【大島部長】

地域戦略を策定することは確定なのか。確定なら戦略の名称は。

【事務局】

策定は確定である。名称はまだ決まっていない。

【大島部長】

事業整理票の提出が必要であるので、難しく考えてしまう懸念がある。

【事務局】

各課でいろいろな戦略や計画が既にあるので、整合性を取っていただき、可能であれば生物多様性の視点で課題とらえ直して、地域戦略に盛り込みたい。委員会では生きもの目線での検討が中心であるため、行政側の目線で見してほしい。

【平課長】

緑の基本計画では獲得目標として生産緑地の追加指定などがあったが、地域戦略では獲得目標はあるのか。

【事務局】

獲得目標はない。

【浅川課長】

23 区のある区では非現実的な将来像をイメージしているが、日野市は現実路線のゴールをつくるのか。

【事務局】

日野市でも 50 年後や 100 年後の目標はスローガンの性的になると思うが、2020 年や 2030 年までの短・中期目標はできる限り具体的な目標設定になる。委員会でもまだ検討段階であるが、今後は実現可能な短期目標と実現させたい夢を長期目標として検討していきます。

【浅川課長】

2020 プランでも 50 年後の未来予想はしているし、2020 プランのほうが上位計画だと思うが、改めて地域戦略で決める必要があるのか。

【事務局】

2020 プランを書き換えるつもりではない、生物多様性の視点で新しい、よいものがあれば書いていきたい。

【熊澤課長】

市民が主役だと副市長から話があったが、市民が主役で動いている事例はあるのか。

【事務局】

市民は委員のメンバーとなり関わっている。市民委員からの意見は十分に得られているため、行政側の日野市の意見をこのような会議をとおしてバランスよく得たいと考えている。

市民委員の紹介

3. 日野市生物多様性地域戦略について

資料 2, 3 で説明

4. 質疑応答

【仁賀田課長】

過去 2 年の成果はあるのか、また組織連携をテーマにしているがこれまでに情報がきていないのはなぜか。

【事務局】

委員会に職員のいる課は、委員から情報提供ができたが、今回の庁内調整会議は、第 1 回目で職員委員のいない課もお呼びしている。情報提供不足はお詫びするとともに今後お知らせいたします。

【大島部長】

策定後の運営はどのように行うのか。

【事務局】

今後、庁内調整会議等を通じて他部署へ周知していき協力をお願いしたいと思います。また、PDCA での観点では、例えばですが「ひのエコ」などを利用することも検討していきます。

【渡邊室長】

戦術のない戦略はファンタジーなので、市の価値が上がるような仕組み作りを、京都市のプレートの例など市民が誇りをもって参加できるようにしたい。

【事務局】

多くの市民や事業者が頑張ってもらえるような仕組みを、生きものの視点以外から見てもらい、市の価値が上がるように、またブランドになるようにしていきたいので、協力をお願いしたい。

【浅川課長】

各課の行う重点プログラムや施策について、非現実的なものがあるが、今後修正は可能か。

【事務局】

各課で出来ない施策等は削除してください。それを叩き台に今後の委員会で内容を詰めていきます。

【小松課長】

観光基本計画とは今後一緒に調整させてほしい。

【事務局】

是非、一緒をお願いしたい。